
sixteen • sexlove

@m

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

s i x t e e n ・ s e x l o v e

【Nコード】

N 9 2 3 7 A

【作者名】

m @

【あらすじ】

愛と死を早くして知り過ぎた少女。16才…子供にもなれず大人にもなれずただ居場所を求めて神戸に渡った。そこで見つけたものは…

序章

あの愛しく狂おしい日々を終止符を打ったのは紛れもなく私自身だった…

十六歳の夏、私は一人神戸に渡った。家族や友達、学校、生まれ育った札幌の街を捨て私はただ居場所を求めて神戸を目指した…

「私はあなたの求めている恋愛観が手にとるように分かる、私はこれまで無理してきたの、無理して人の恋愛観にあわせてた。ただあなたの恋愛観と私の恋愛観が一致しただけ、あなたと同じ恋愛観をもっているだけ」

なぜあのときあたしは泣き出してしまったのだろうか？

すべてが嫌だった。それでもただ漠然と過ぎる日々を私はただ見つめるだけ。

ずっと偽って自分を造り上げいつしか本当の自分なんかどこにも見当たらなかった。

すべての音が雑音だった。クラスメイトの話し声、噂話、先生の怒鳴り声、すべてが雑音。

あたしにとって人間から発せられる音はすべてが雑音でしかなかった。

どうでもいい芸能人の話、化粧品の話、男の話、毎日毎日繰り返されるこのような類いの話。あたしはいつしか笑うことさえ、息をすることさえできなくなっていた。

一人が嫌なわけではない、むしろ一人を好んでいた。

さびしさを紛らわすために人とつるむなら私はさびしさと対等に向き合いたい。そう思っていた。

だから私はいつだって一人。

友達は居たもののすべて上辺の付き合い、私から彼女たちから遠ざかっていった。自分の周りに壁を張り巡らし、だれも入れないようにそれがたとえ両親であろうと、ただひたすらに拒んだ。今になって思えばきつとすべてが怖かった。私が臆病なだけだったのだろう。

今、私は本当に一人。拒み続けて周りになにも無くなった。一番大切なものも失って、なぜあるとき気付かなかつたのだろう。今になつてはもう後の祭り。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9237a/>

sixteen・sexlove

2010年12月23日14時20分発行